

## ユーラシアン放射線学会訪問記

滋賀医科大学放射線医学講座 渡邊嘉之

2025年6月26日から28日にかけて、カザフスタンの首都アスタナで開催された第11回ユーラシアン放射線学会に参加いたしました。

今回は、カザフスタン放射線学会のご厚意により「Radiological Society of Kazakhstan (RSK) meets Japan Radiological Society (JRS)」セッションが企画され、富山理事長をはじめ、日本から計5名が参加いたしました。

セッションの内容は以下の通りです。

- |                    |  |
|--------------------|--|
| <b>11:00-13:00</b> | <b>RSK meet JRS session</b>  |
| <b>Chairmen:</b>   | <b>Noriyuki Tomiyama, Osaka/Japan</b><br><b>Tairkhan Dautov, Astana/Kazakhstan</b>   |
| <b>11:00-11:15</b> | <b>Introduction of Japan Radiological Society (JRS)</b><br>Yoshiyuki Watanabe, Shiga/Japan   |
| <b>11:15-11:35</b> | <b>Imaging diagnosis and catheter treatment of chronic thromboembolic pulmonary hypertension (CTEPH)</b> Tetsuya Fukuda, Osaka /Japan  |
| <b>11:35-11:55</b> | <b>Imaging of the Skull Base</b> Minako Azuma, Miyazaki/Japan  |
| <b>11:55-12:15</b> | <b>Clinical usefulness of dynamic ventilation computed tomography</b><br>Yukihiro Nagatani, Shiga/Japan                                |
| <b>12:15-12:30</b> | <b>Introduction of Radiological Society Kazakhstan</b><br>Tairkhan Dautov, Astana/Kazakhstan   |
| <b>12:30-12:50</b> | <b>Development of interventional radiology in the Republic of Kazakhstan at the present stage</b> Viktor Zemlyanski, Astana/Kazakhstan |

日本側からは、JRS の現況、教育体制、研究活動に関する発表を行い、カザフスタン側からは 2 名の先生より現地の状況についてご報告がありました。

カザフスタンは広大な国土に約 2,000 万人が暮らす、人口密度の低い国として知られています。開催地であるアスタナは、1997 年に首都が移転されて以降、新たに開発が進められている都市であり、広大な土地に人口が分散している印象を受けました。

市内各所で建設工事が進行しており、成長著しい国であることを実感いたしました。

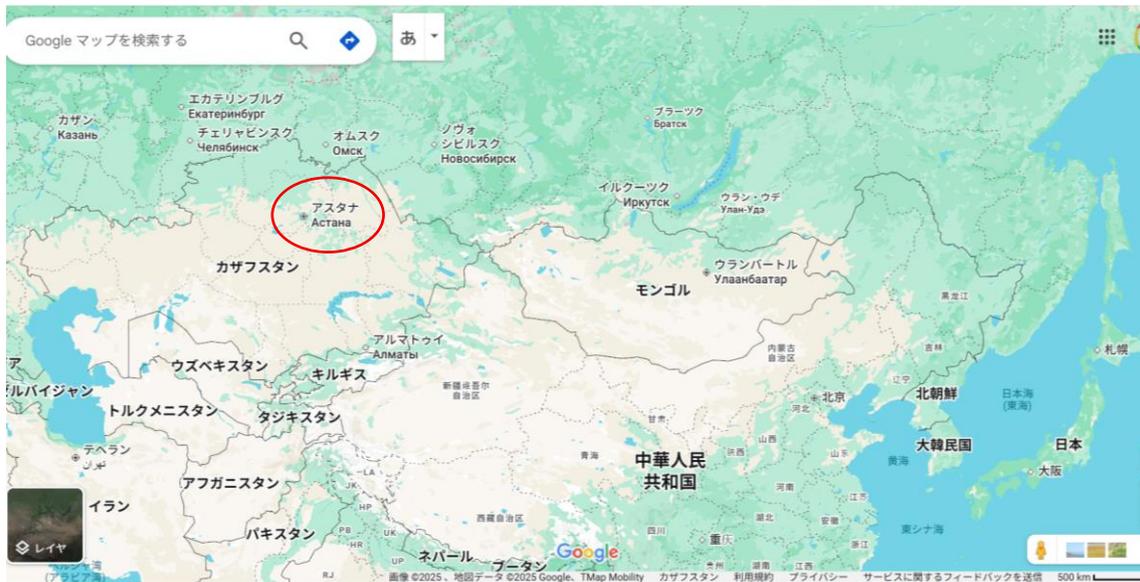
同国の放射線診断専門医は約 500 名と限られており、今後さらなる人材育成が求められているとのことでした。

また、画像診断の中心は超音波検査であり、エコーを専門とする医師が多数いると伺い、日本との医療環境の違いを感じました。

今回、富山理事長がカザフスタン放射線学会より名誉会員の称号を授与されました。

JRS としても、今後カザフスタンにおける放射線医学の発展に貢献できる可能性を強く感じております。今後も両国間の学術的な交流が一層深まることを期待しております。

なお、2025 年春より成田とアルマトイ（カザフスタンの旧首都）を結ぶ直行便が就航予定です。中央アジアに関心のある方は、この機会にぜひ一度訪問されてみてはいかがでしょうか。



カザフスタンの位置



学会の抄録集：カザフ語、ロシア

語、英語の表記となっている



アスタナのシンボル：バイテレク タワー